

# 国際大会参加報告書

08年12月8日

社団法人日本ボディビル連盟  
会長 玉利 齊 様

報告者 藤原 達也 ㊞

大会名	IFBB 世界ジュニア&マスターズボディビルデング&フィットネス選手権大会				
開催期間	08年11月28日～08年12月1日				
開催場所	チェコ共和国	都市名:ピルゼン市			
参加国数	37カ国	参加選手数	223名		
役員	役員名	役職・他			
	監督 藤原 達也	社団法人日本ボディビル連盟 副会長			
選手	選手名	所属連盟	カテゴリー	順位	備考
	國井 祐平	宮城	男子ジュニア	7位	70キロ超級
	奥村 武司	大阪	男子マスターズ	6位	40歳 70キロ級
	野澤 勉	東京	男子マスターズ	12位	40歳 70キロ級
	小沼 敏雄	東京	男子マスターズ	12位	40歳 80キロ級
	大橋 勝彦	宮城	男子マスターズ	14位	40歳 80キロ級
	片川 淳	山口	男子マスターズ	6位	50歳級
	廣田 俊彦	愛知	男子マスターズ	10位	50歳級
	井原 茂	社会人	男子マスターズ	8位	60歳級
廣田 ゆみ	愛知	女子マスターズ	10位	オープン	
レポート	<p>今大会はジュニアがフィットネス3・ボディフィットネス2・クラシック1・ボディビル3の計9カテゴリー、マスターズがボディフィットネス1・ボディビル8・計9カテゴリー、合計18カテゴリーで実施された。</p> <p>日本選手の結果は上記の通りで、世界ジュニアに日本人として初挑戦した國井選手は堂々とチャレンジしたがベスト6を惜しくも逃した。男子マスターズは40歳70キロ級奥村選手は国際大会の経験を生かし積極的に試合を進め6位入賞、50歳級片川選手も切れのある体を強調し自身世界大会過去最高の6位入賞を果たした。60歳級井原選手は6位入賞を目指したが昨年より選手層レベルアップによりバルクに圧倒され入賞を逃した。JAPAN TEAM としては選手同士がカラーリング・パンプアップ等お互いに協力し合い、日本選手全員が予選審査に進出出来たことは評価に値すると考える。</p> <p>今後の日本選手の課題として、各自欠点を修正し目的を持ち国際大会の戦い方を研究し入賞を目指す必要がある。</p> <p>全カテゴリー中、ジュニア メンズ クラシックは日本人選手としてベスト3を狙える可能性のある種目と思われるので、来年以降日本ジュニア選手権入賞者の派遣選考を提案したい。</p>				

※ 本報告書は帰国後1ヵ月以内に大会結果表を添付して日本連盟事務局に提出して下さい。  
※ レポート欄が足りない場合は別紙に記入して添付して下さい。